
**花巻市へふるさと納税していただき、地域の物語を体験し、
ぜひ一緒に発信しましょう。**



【事業名】 物語が紡ぐ花巻への逆参勤交代事業

【団体名】 岩手県花巻市

【事業対象】

パターン(1)-②: ふるさと納税で寄付を行っている方向け

【事業概要】

ふるさと納税制度を活用し、返礼品ではなく、地域それぞれにある物語をキーワードに、地方への往来を生み出します。

(1)事業目的・背景

岩手県花巻市は、市の中心市街地や中山間地域から郊外のへの動きが加速し、地域の担い手や第1次産業の担い手、伝統芸能の後継者不足などが進んでいます。また、市独自のインターネット調査によると、知名度は約92%と高い数値ですが、どのような街であるか、来訪経験があるといった街の理解度は約30%程度と低いです。

そこで、ふるさと納税制度を活用し、返礼品だけでなく、寄附者と地域が継続的なつながりを持つ仕組みの構築するため、寄附者に対して、作業体験と魅力発信の編集体験を提供して、市への新たな興味関心層の発信と継続的なつながりを生むサイクルをつくります。

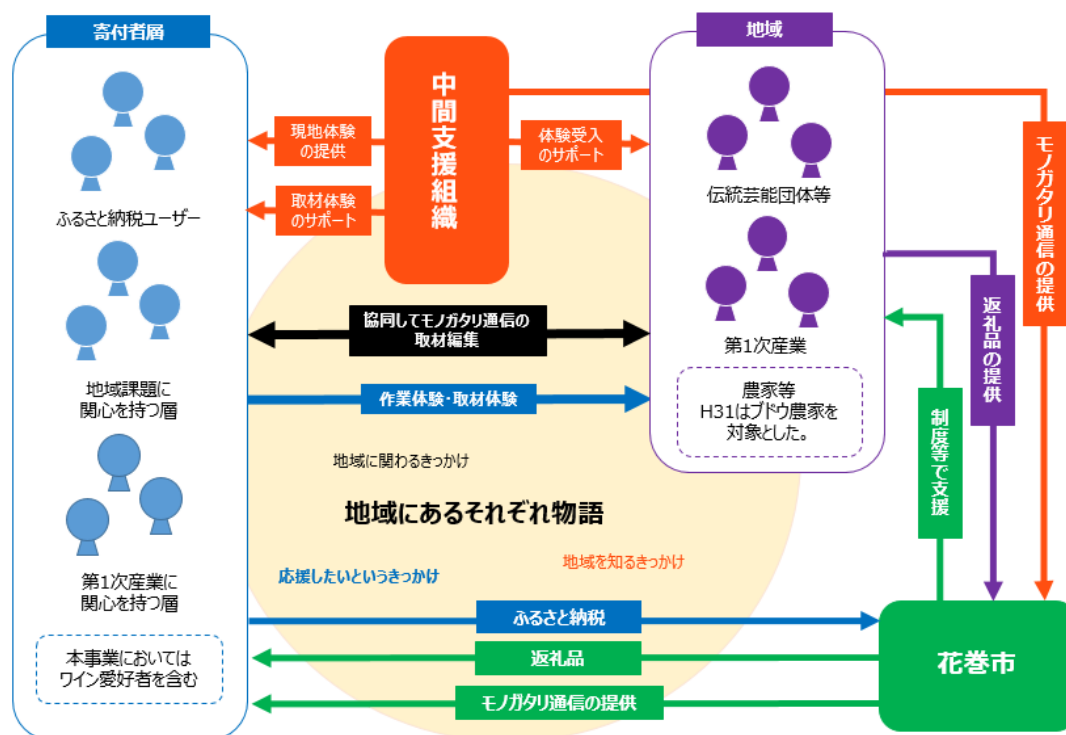
(2)取組の内容

ふるさと納税制度を活用し、地域と寄附者の継続的なつながりを生み出すため、寄附者に花巻のヒト・モノに関わる物語を提供し、その物語に共感した寄附者が、それに直接触れる場と共創する場を提供します。

寄附者には、返礼品で提示したブドウ農家の作業など、消費者としては見ることのできない物語を現場で直接体験できる場を提供する。その中で、寄附者と地域が当事者または登場人物となり、それぞれの物語をソトとナカの目線で再評価し、取材や再編集を行うことにより継続的に共創す

ることで、見えなかった物語を見える化した冊子等で発信しました。
 なお、編集と冊子の発刊にあたっては、特定非営利活動法人 東北開墾(代表理事 高橋博之)と花巻市が連携して実施する。

<参考資料>



出所)岩手県花巻市提供資料

(3) 取組の体制

岩手県花巻市
 特定非営利活動法人 東北開墾
 受入地域
 株式会社 CAMP FIRE

(4) モノガタリ通信の発刊

ふるさと納税寄附者と地域の共創の場の開催により、再評価した地域の魅力を見える化するため冊子制作にあたっては、現地イベントで参加者が取材した内容は、掲載に耐えるものであり、取材内容を中心に寄附者等の協力を得て、デザイン案の検討やレイアウト構成、本文案の検討などの一部編集作業を行い、「モノガタリ通信 花巻ブドウ編」として刊行しました。

モノガタリ通信は、イベント参加者の取材記事はもとより、大迫地域のブドウ農家の歴史や現在行っているブドウ畑維持のための取り組み、ヨソモノが地域に関わることによる効果などを編集しました。

今後、電子ブック化し、市のホームページやファンクラブサイト等で公開します。



第3章 ひとつの畑を受け継ぐということ

東京生まれの東京育ちの一人の成長史、17年間かけて畑の継承に挑むための、東京生まれの1人、東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。

人生前期の様子

1995年秋、大迫のぶどう畑の継承。東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。



大迫のぶどう畑

東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。1995年秋、大迫のぶどう畑の継承。東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。



大迫のぶどう畑

東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。1995年秋、大迫のぶどう畑の継承。東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。

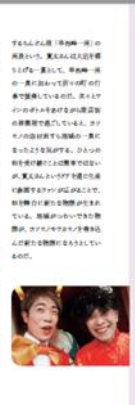
大迫のぶどう畑

東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。1995年秋、大迫のぶどう畑の継承。東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。



大迫のぶどう畑

東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。1995年秋、大迫のぶどう畑の継承。東京生まれの東京育ちの1人、大迫のぶどう畑を継承していくこと。



大迫のぶどうとワインの特徴

大迫のぶどうとワインの特徴。大迫のぶどうとワインの特徴。大迫のぶどうとワインの特徴。

土壌	品種
大迫のぶどう畑は、土壌が豊かである。大迫のぶどう畑は、土壌が豊かである。	大迫のぶどう畑は、品種が豊かである。大迫のぶどう畑は、品種が豊かである。
気候	人
大迫のぶどう畑は、気候が豊かである。大迫のぶどう畑は、気候が豊かである。	大迫のぶどう畑は、人が豊かである。大迫のぶどう畑は、人が豊かである。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

収穫作業

2018年9月15-18日

大迫のぶどう畑は、収穫作業が行われる。大迫のぶどう畑は、収穫作業が行われる。

雨よけビニール撤去作業

2018年11月3日

大迫のぶどう畑は、雨よけビニール撤去作業が行われる。大迫のぶどう畑は、雨よけビニール撤去作業が行われる。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。



大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫のぶどう畑

大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。大迫のぶどう畑。

大迫とわたしのモノガタリ

ぶどう栽培の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。

大迫とわたし

大迫氏は、ぶどう栽培の歴史や現状について、独自の視点から語ります。ぶどう栽培の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。



高橋 淳之(仮名)

ぶどう栽培の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。

様々な開き方

ぶどう栽培の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。

4世紀前 BC 酒の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。

2023年 ぶどう栽培の歴史は古く、日本でも古くから栽培されています。ぶどうは、その果実の味や香り、そして皮の栄養価から、健康に良いとされています。大迫氏は、その歴史をたどり、現代のぶどう栽培の現状や課題について、独自の視点から語ります。



新しいふるさととのつながりを始めます！

—岩手県花巻市×東北食べる通信×CAMPFIRE—

本当にふるさとのためになる、
ふるさと納税の仕組みをつくりたい。
寄付者と受益者、お互いに顔が見える、これまでにない「ふるさと納税」を
岩手県花巻市から始めます！

ふるさと納税型クラウドファンディング

🔥CAMPFIRE ふるさと納税

岩手県花巻市

目指す新しいふるさと納税の形

「ふるさと納税」を活かした、新しいつながりを始めます！
 リターン品の質で競うふるさと納税ではなく、都会の人と地域の人が一緒になって「ふるさと」を創り、広げる。その楽しさや理念で選んでもらえる「ふるさと納税」を私達は作りたく思います。
 花巻市大迫町（おおはさままち）は岩手のワイン醸造の先駆けとなった町ですが、ブドウ農家の高齢化や過疎化が深刻です。3年前に東京から来た鈴木寛太（カンタ）がナビゲーターとなり、一緒に大迫に飛び込み、モノガタを残すべく上げ、発信する仲間を募集します！



つながる仕組み「モノガタリ通信-花巻ぶどう編-」の発行

ヨソモノと地域の人がコラボレーションすると、これまで「難しい」だけだった地域課題が「楽しい」ものになる。「自分たち」のふるさとが、「みんなのもの」になる。「モノガタリ通信-花巻ぶどう編-」は、こうした関係性を加速するための仕掛けです。

「モノガタリ通信」は、寄付者のみなさんに実際に大迫に来ていただき、ぶどう農家を取材し、記事にさせていただいたものを編集し、冊子として発行する活動です

▶ 現地取材ツアー

第1回 9月15-16日 ※9月9日（日）までに寄付いただいた方が対象
 収穫体験、ワイン工場見学、おおはさまワイン祭り

第2回 11月3-4日 ※10月21日（日）までに寄付いただいた方が対象
 ぶどう棚のビニール撤去作業体験、ワイン工場見学、ぶどう品種講座



「日本初の食べ物付き情報誌」、東北食べる通信。

取材では、ぶどう農家さんの作業をお手伝いし、インタビューし記事にします。文章を書くのは苦手だけど、体験だけ参加したい！という方も歓迎です。また、カメラマン・イラストレーターとしての取材参加も大歓迎です。（現地までの交通費および宿泊費は各自ご負担ください。JR 花巻駅・新花巻駅集合です。）

上記日程に参加出来ない方も、花巻にいらっしゃる際は、メンバーが大迫町の紹介を行いますので、ぜひご連絡ください！

東北各地で生産現場の取材と制作をおこなってきた、「東北食べる通信」メンバーが、取材のサポートを行います。

ふるさと納税型クラウドファンディングの目標額は300万円！

これは「ふるさと納税」であり、ご寄付いただいたお金は、市に納付され、ぶどう農家を始めた農業振興のための予算となります。例えば、新規就農者向けの技術支援や、住むための住宅取得支援などです。もちろん税額控除も受けられます。

ご寄付いただいたお金は、モノガタリ通信の発行のためだけでなく、市に納付され、ぶどう農家をはじめとした農業振興に必要な行政予算となります。例えば、新規就農者向けの技術支援や、住むための住宅取得支援などです。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先
 岩手県花巻市 地域振興部定住推進課
 ☎ 0198-24-2111（内線471）
 E-mail : teiju@city.hanamaki.iwate.jp

リターン情報やナビゲーターのカンタの思いなどの詳細につきましては、右のQRコードを読み取り、詳細をご確認ください。



【連絡先】

担当部局名 岩手県花巻市地域振興部定住推進課

担当部局連絡先 TEL: 0198-24-2111 E-MAIL: teiju@city.hanamaki.iwate.jp